

エグゼクティブサマリー

# IoTが導く 未来

ボーダフォンIoT普及  
状況調査レポート2019

The future is exciting.  
**Ready?**



**vodafone**  
business

# ボーダフォンIoT普及 状況調査レポート2019 概要

## IoTを利用する企業は増えています。

2018 年に行った調査レポートと比較すると、IoT を導入する企業は、29% から 34% へと急速に増加しました。その一因として、IoT を導入しやすくなったことがあげられます。現在多くの企業では、一からスクラッチで構築するのではなく、費用対効果の高い既存の IoT ソリューションを導入する傾向があります。IoT を導入している企業の 74% が、「IoT を導入していない企業は 5 年以内に競争から脱落するだろう」と考えています。競合他社に差をつけられる前に、今すぐ行動を起こす必要があるでしょう。

# 34%

の企業がすでに IoT を導入—輸送、製造、金融サービスなどの業界ではそれ以上の割合で導入が加速。

## IoTはあらゆる産業分野に変革をもたらしています。

私たちは数多くの産業分野の企業を対象に調査を行った結果、IoT は広範囲にわたって多大な影響をもたらしていることがわかりました。例えば、自動車業界における IoT 導入企業の 86% は、「収益の増大」や「自社製品の差別化」のために、すでに IoT を利用している、または利用することを計画しています。また、保険業界では 84% の IoT 導入企業が「自社のビジネス戦略は IoT 導入によって変革した」と回答しています。全体で見ると、IoT 導入企業の 60% が、「今後 5 年間で IoT によって自分の業界が完全に変革されるだろう」と述べています。それはあなたの業界かもしれませんし、それはもう始まっているかもしれないのです。

# 60%

の IoT 導入企業が、「IoT が 5 年以内に自分の業界を変革する」と回答

## メリットは計り知れません。

IoT 導入企業の 95% はすでにそのメリットを実感しています。半数以上 (52%) は、「IoT 導入による効果が非常に大きかった」と回答し、79% は「IoT なしでは不可能ともいえる前向きな結果をもたらした」と述べています。例えば、オペレーションコストの削減 (53%)、データ収集の向上 (48%)、既存の仕組みからの増収 (42%) など、メリットはさまざまな側面であらわれています。IoT によるコスト削減をあげた企業では、平均 18% のコスト削減を実現しています。収益が増加したとする企業では、平均 19% の収益増加を実現しています。

# 76%

の IoT 導入企業は、「IoT プロジェクトは必須だ」と回答しています。また 12 社に 1 社では、「今ではビジネス全体が IoT に依存している」と回答しています。

運送およびロジスティクス企業は、IoT によって車両や貨物、資産のロケーションをリアルタイムで追跡できるようになるため、燃料の使用量の抑制、遅延の回避、問題の迅速な対応が可能になります。

# IoT普及状況調査レポートが あなたの疑問に答えます

## 87%

のIoT洗練度が高い企業が、「非常に大きなリターンがあった」と回答

**どうすればIoTからもっと多くを得られますか？**

Vodafone は、数千もの企業とのIoTプロジェクト開発のための共同作業を通じて、最良の結果をもたらす秘訣を多く学びました。そのようにして得られた知見を活かし、「IoT洗練度指数」を利用した分析方法を考えつきました。洗練度指数が低いIoT導入に向けて歩み始めたばかりの企業のうち17%は、「得られたメリットには大きな意味があった」と答えていますが、洗練度指数が最も高い企業では、その数値は87%にものぼります。

## 25%

の企業がすでにLPWANを利用し、52%の企業は5Gの将来的な利用を検討

**適切な通信方式を選ぶためには？**

現時点で、もっとも一般的に使われているIoT向け通信方式は携帯電話通信(4Gおよび4G+を含む)です。Wi-Fi(69%)、固定回線(33%)、LPWA-省電力広域ネットワーク(25%)がそれに続いています。ところが、IoT活用において洗練度指数が高い企業では、平均して3種類の通信方式を併用する選択をしています。これらの企業では、IoTプロジェクトによって必要になる要件が異なることを理解しているからです。また、半数以上(52%)のIoT導入企業は、将来を見越して5Gの利用を検討しています。

## 96%

のIoT洗練度指数の高い企業が、彼らのサプライヤーがIoTセキュリティリスクを効果的に管理するスキルを持っていることを確信

**セキュリティはどう考えるべきですか？**

IoT導入企業のうち84%は、「セキュリティに取り組む必要はあるが、セキュリティを、イノベーションを諦める言い訳にすべきではない」と回答しています。IoT導入企業は開発段階でのデバイスの検証(40%)、IoTセキュリティの専門家を採用する(39%)、デバイスを認証する(37%)、などさまざまな手段を用いてデバイスを保護しています。また、IoT洗練度指数の高い企業のうち96%は、彼らのサプライヤーがIoTセキュリティリスクを効果的に管理するスキルを持っていると考えています。つまり、セキュリティ対策はサードパーティから協力を得ることも一つのアイデアです。

**必要な専門知識はどこで得られますか？**

IoT導入企業の60%はIoTの専門チームを組織しています。多くのケースでは、この専門チームは複数の部署にまたがって機能しています。これは、ビジネス戦略や、競合企業との差別化のためにIoTが担う役割が重要であると企業が考えていることを裏付けているといえるでしょう。またIoT導入企業は自社の組織だけではなく、外部からのサポートも求めているようです。IoT導入企業のうち79%が、「過去1年間で、IoTプロジェクトを遂行または管理するために、パートナーを利用することが増えた」と述べています。さらに、IoT活用において洗練度指数の高い企業のうち60%が、IoTの専門知識についてサードパーティに依存していると回答しています。

**さらに知見や助言を得るには、IoT普及状況調査レポート全文をお読みください。**

[vodafone.com/iotbarometer](https://vodafone.com/iotbarometer)

#### ボーダフォンIoT普及状況調査レポート2019について

本レポートの1,430名の回答者は、幅広い地域、業界、企業規模、職務役割から厳選されたメンバーによって構成されています。本年の調査回答者では、前年度と類似のメンバー構成をなっているため、同一条件での比較分析を可能にしています。さらなる知見を提供するため、今年度はさらに328のIoTアダプターを調査しました。これにより、アダプターがどのように考え、行動しているかについて、より深く掘り下げることができました。また、当社のIoT先進化指数を検証し、実現したメリットとの相関を分析することも重視しました。

[vodafone.com/business/iot](https://vodafone.com/business/iot)

2019年 ボーダフォングループ。本書はボーダフォンが機密文書として発効するもので、事前にボーダフォンの書面による許可を得ることなくその全部または一部を複製することは禁止されています。ボーダフォンのブランド名およびロゴはボーダフォングループの登録商標です。本文中に述べられているその他の製品名および社名は、個々の所有者の登録商標です。本書中に含まれる情報は、印刷時点で適正なものです。この情報への依存は受益者の責任において行われるものとします。ボーダフォングループの全メンバーは、この情報の利用に関していかなる法的責任を負うものではありません。この情報は変更されることがあります。各サービス内容は、ボーダフォンによって予告なく修正、補足、削除されることがあります。すべてのサービスは契約条件の対象となります。サービス契約書の写しは請求によって取得できます。



**vodafone**  
business